

今月のマンチェスター (2008年8月10日~9月12日)

白戸 秀 (筑波大学 生物学類 3年、TJB 学生編集部)

私は筑波大学生物学類とマンチェスター大学との間の交換留学協定に基づいて、1年間の留学を2008年8月から始めました。マンチェスターでの経験や出来事を同時刻的に紹介し、今後留学を考えている在学生の皆さんや、筑波大学に入学を考えている中高生の皆さんの参考になればと考え、連載を始めることになりました。

到着

ビザ申請・航空券の手配なども無事に終わり、いよいよ夏真っ盛りの日本を離れました。初めて乗る国際線の添乗員は大半が外国人で、「ワインはいかがですか?」というフレーズが聞き取れず、先が思いやられました。ロンドンヒースロー空港で国内線に乗り換えてからは乗客も全て非日本人になってしまい、いよいよ外国、という気持ちになりました。

およそ18時間の飛行ののち、マンチェスター空港に到着しました。涼しかったです。荷物を受け取り空港を出ると筑波でおなじみだった「SPAR」がありました。多国籍企業だったのですね。「マンチェスターは筑波」であるような気がしてきました。「SPAR」ばかりでなく、街の作りや雰囲気が似ているのです。もちろん、古い建物は全然違うのですが、新しい建物はとても筑波に似ています。スクールカラーも「紫」です。

空港から大学までは、タクシーで30分ほどでした。運転が荒くて呆れました。後部座席が広くて、荷物をたくさんおけるロンドン型タクシーなのですが、大学に着くまでにスーツケースがあちこちに転がって行ってしまいました。

大学の受付にどうにか到着しましたが、受付が、がっしりした体型の男性で、少し怯みました。こちらの人たちは、英語ができない相手だとわかってゆっくりしゃべったりしてくれないような気がします。



マンチェスター大学の Whitworth building. 大学はこのような古い外観の建物ばかりではなく、総合研究 A 棟のような新しい建物もある。

気候

8月なのに最高気温が20度前後という、日本からみると信じられない状況でした。いらないと思っていたセーターが大活躍しました。更にセミの声が全く聞こえないので、8月という感じは少しもしませんでした。セミはいないようです。天気が変わりやすいとは聞いていたのですが、ここまですべて変わるのには毎日感心してしまいます。常に狐が嫁入りしているようです。例えば、朝起きて今日は久しぶりによく晴れたなあと思って油断していると、お昼を食べに行く時にずぶぬれになります。お昼を終えてカフェを出る頃にはまたよく晴れています。このような天気をイギリス人は皮肉をこめて「Beautiful Weather」と言っていました。雨上がりの20時頃に虹がかかったのを見た時は、実際「Beautiful」だと思いました。緯度が高いので、日が非常に長いのです。また、サウジアラビア人は「4 seasons in a day」と表現していました。なかなか的確な表現だなと思いました。

常にくもり空で太陽が恋しくなり、突然の雨に傘を差す間もなくずぶぬれになることを除いては、気温も程よく、暮らしやすいという印象を持ちます。ただ、現地人の話によれば、こんなに太陽が出ない8月も珍しいということで、少し例外的な夏なのかもしれないとも思いました。



8月下旬の20時にかかった虹。緯度が高いのとサマータイムを導入しているせいで、夏の間は遅くまで日が沈みません。

語学学校

学校は9時半から15時半までで、11時から30分、13時から一時間の休憩があります。全体的には中国人の数が多くいます。午前中のクラスは、トルコ人が4人、サウジアラビア人が4人、日本人が2人、台湾人、韓国人が1人ずつ、午後のクラスはトルコ人2人、サウジアラビア人2人、中国人2人、日本人2人、韓国人とラオス人が1人ずつという構成でした。授業では、何とんでもトルコ人イングリッシュとサウジアラビア人イングリッシュにしばらく苦戦しました。ただ、彼らは、なかなか独特な発音なのですが、自信をもって話すので見習うところが多いと思いました。例えば、僕が日本人なりに苦労して、舌を歯の間にはさみながら「すあーていいん」と言っているのに全く理解せず、結局数字で13と書くと、「ああ、せらせていんかあ、お前、せらせていんって言わなきゃわからないじゃないか、ほら、せらせていんって言ってみろ」といった具合です。特にサウジアラビア人と仲良くなったため、サウジアラビアアクセントが多少うつつたのではないかと思います。

「スピーキングやリスニングは自然に身に付くものだから」と先生は言っていて、授業内容は文法などが中心でした。クラスの生徒のうちかなり自由に英語をしゃべれる(実際ほとんど全員が自由にしゃべれるような気がする)のに、センター試験に出るような文法問題で悩んだりしているので意外な気がし、逆に、そういうのはわかるのにしゃべれない自分が歯がゆく感じる毎日でした。

宿舎・生活

8部屋が一つのフラットを構成していて、共有のダイニングキッチンが一つと、共有のバスルームが二つあります。僕のフラットには中国人3人、韓国人、日本人、インドネシア人が一人ずつの6人が住んでいます。最初の一週間くらいはコミュニケーションがうまくとれないのと、疲れがたまっていたことで、ほとんど話さずにごすごしてしまっただけですが、少し慣れ始めてからは、キッチンで晩御飯を食べながらコミュニケーションをとるようにしました。中国人たちは、中華鍋と中華包丁をばっちり買いそろえて中華料理を次々と作るので、さすがだと思いました。イギリスに来てこんなに中華料理が堪能できるとは思ってもみませんでした。中華料理5皿6皿を囲んでの夕食は、豪華です。

イギリス全体がそうなのでしょうが、マンチェスターは多国籍な街で、中東系やインドの店が集中している地区と、中華街があります。また、中国系のスーパーマーケットがあって、ここでは日本の食材や調味料もずいぶん揃います。ちなみに中国系スーパーマーケットに行くと、店員には間違いなく中国語で話しかけられます。また、シティセンターに日本好きなイギリス人オーナーが経営する日本専門店があり、食材などはもちろん、菓子やキャラクターグッズなど、プレゼントに喜ばれるようなものを買うことができます。

何度かナイトクラブに行く機会がありました。大音量のクラブミュージックで耳がおかしくなりますが、イギリスでは平日でも夜中までよく踊るものだと思います。



クラブナイト。木曜日なのに3時過ぎまで踊り続けていました。

Day Trip

毎週末にはバスでイギリスの観光地に行くツアーが開催され、語学学校の学生の多くが参加します。大型バス3~4台を使います。Oxford、Chester、湖水地方、York というイギリスの観光地に行くことができました。参加費は無料なのですが、これは授業料に含まれているということだと思うので、参加しないと損なのだと思います。そもそも、他国の人と観光するには、それなりに英語を使わなければならないので、授業の一環とみなせないこともないかと思いました。現地に着いてからは完全な自由行動です。オックスフォードで、運河に浮かべた船で自由な生活を送る人たちに出会ったことや、中国人とチェスターの城壁を歩きながら万里の長城の話をしたこと、また、湖水地方のカフェでトルコ人と、トルコと日本との関係について話し合ったことなどが印象的です。



Yorkshire Museum。日向ぼっこに最適な天気と芝生で、メキシコ人の友人は昼寝していました。



Yorkのレストラン。ラムとジャガイモとほうれん草。イギリス料理もなかなかおいしい。

一ヵ月経って

とても一ヵ月とは思えず、なんだか一年くらいに感じる濃厚な毎日でした。最初のうちは語学学校に行って帰ってくるだけで精いっぱいだったのですが、だんだんに、パーティーを開いたり、街に出かけたりする余裕も出てきました。

いよいよ語学学校も終わりました。先日にはラボのメンバーにも会い、新学期が始まります。

2008-09-19

<白戸さんに質問>

一出国するときの心境はどうでしたか？ 不安などはありましたか？

これからイギリスに一年行くんだなあという実感がほとんどなかったのが実際です。引っ越しや荷物の整理、ビザの申請などが大変で、ごたごたしているうちに出発してしまったという印象です。

一雨がよく降っているということですが、湿度はどうですか？

じめじめしているという感じはしません。気温が低いためかもしれません。

一語学学校に通っていた期間は？

8月から9月までの5週間です。平日朝9時半から13時、14時から15時半まででした。金曜日は午前中のみなので、午後は遊びに出かけられます。

一他の国からの留学生との交流を通して、日本との違いは感じますか？

時間どおりに来ません。特に朝の授業では開始の時間に僕と先生しかいない状況が何度もありました。時間に厳しいクラスもあったようですが、僕のクラスはそういう状況でした。授業が10人程度で、先生も気楽なせいもあるかもしれませんが、日本のクラスで1時間遅れて普通に入ってくることはあまりないかなあと思います。

一食生活はどのようにしていますか？

昼は大学のカフェに行くことが多かったです。夜は自炊をしています。ピザショップやハンバーガーショップなどは遅くまで営業していますが、学食やレストランのようなところは早くに閉まってしまうので、自炊せざるを得ない状況です。米や味噌など、日本的な食材の調達は比較的容易です。そしてキッチンが大きくて使いやすいので、自炊は楽しいです。

また、Barに行くとビールとポテトチップスのようなものしかなく、基本的に食事は出てこないのでも Barに行く前に夕飯を食べます。大根サラダと、から揚げくらいは欲しいなあと思ってしまいます。

Communicated by Shinobu Satoh, Received September 23, 2008.

Revised version received December 28, 2008.